別 添 1

令和２年６月９日
東日本高速道路株式会社

令和元年度　決算概要

１．連結決算概要（経営成績）

（単位：億円〔単位未満切捨て〕）

区　　分	平成30年度 決算 A	令和元年度 決算 B	対前年増減額・率 B-A	(%)
営業収益	19,431	12,643	△ 6,787	△34.9%
高速道路事業	18,659	11,817	△ 6,842	△36.6%
（料金収入）	8,599	8,574	△ 25	△0.2%
（道路資産完成高）	9,985	3,160	△ 6,825	△68.3%
（その他の営業収益）	74	82	8	11.2%
関連事業	838	891	53	6.3%
（ＳＡ・ＰＡ事業）	416	406	△ 9	△2.2%
（受託・その他の事業）	422	484	62	14.7%
セグメント間取引の消去	△ 66	△ 65	1	-
営業費用	19,386	12,542	△ 6,844	△35.3%
高速道路事業	18,649	11,741	△ 6,907	△37.0%
（道路資産賃借料）	6,211	6,118	△ 93	△1.4%
（道路資産完成原価）	9,985	3,160	△ 6,825	△68.3%
（管理費用等）	2,451	2,462	10	0.4%
関連事業	805	867	62	7.7%
（ＳＡ・ＰＡ事業）	385	384	△ 1	△0.2%
（受託・その他の事業）	419	482	63	15.1%
セグメント間取引の消去	△ 67	△ 65	1	-
営業利益	44	100	56	127.2%
高速道路事業	10	76	65	630.1%
関連事業	32	23	△ 9	△27.9%
経常利益	75	137	62	83.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	41	99	58	142.3%

※）令和２年度の連結決算通期見込につきましては、新型コロナウイルス感染症による影響を合理的に算定することが困難であることから、現時点では未定です。

（注）当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分		主要内容
高速道路事業		高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等
関連事業	ＳＡ・ＰＡ事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

2. 連結営業概況

（1） 高速道路事業の営業状況

- 高速道路事業の営業収益は、前期比6，842億円減の1兆1，817億円となりました。

  このうち、料金収入については、新規開通、うるう年、大型車類のご利用増加など、料金収入が増加する要因があったものの、台風などの災害や年度末の新型コロナウイルス感染症の影響などによる料金収入の減少[※1]がそれらを上回ったことにより、前期比25億円減の8，574億円となりました。

  また、道路資産完成高については、東北中央自動車道（南陽高畠インターチェンジ（IC）～山形上山IC）の新規開通など[※2]がありましたが、前期に比べて道路資産の引き渡しの規模が小さかったため、前期比6，825億円減の3，160億円となりました。

  ※1　令和 2 年 3 月の料金収入は前年同月比 84 億円減（11.4%減）

  ※2　平成 30 年度開通区間　東京外環自動車道　三郷南 IC～高谷 JCT　（15.5km）
  後志自動車道　余市 IC～小樽 JCT　（23.3km）
  令和元年度開通区間　東北中央自動車道　南陽高畠 IC～山形上山 IC　（24.4km）

- 高速道路事業の営業費用は、前期比6，907億円減の1兆1，741億円となりました。

  営業費用のうち、雪氷対策費用は前期比15億円減となりました。

  なお、雪氷対策費用を含む管理費用等については、新規開通路線の管理費用の増加などにより、前期比10億円増の2，462億円となりました。

  独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、前期比93億円減の6，118億円となりました。

  道路資産完成原価については、道路資産完成高と同額を計上しています。

- この結果、高速道路事業営業利益は、前期比65億円増の76億円となりました。

（2） 関連事業の営業状況

- サービスエリア・パーキングエリア（SA・PA）の飲食・物販店舗売上高は、上半期は、ゴールデンウィークが10連休だったことに加え、7月にオープンした東北自動車道　蓮田SA（上り線）の売り上げが好調でしたが、下半期は、台風などの災害や新型コロナウイルス感染症の影響[※3]を受けたことから、通期では前期比1．1%減の1,009億円となりました。
- このため、SA・PA事業における営業収益は、前期比9億円減の406億円となりました。
  また、営業費用は前期比1億円減の384億円となりました。
- この結果、SA・PA事業営業利益は前期比8億円減の22億円となりました。
- 受託事業・その他の事業を加えた関連事業全体の営業利益は、前期比9億円減の23億円となりました。

  ※3　令和 2 年 3 月の飲食・物販売上高は前年同月比 20 億円減（24.8%減）

【参考】

個別決算概要（経営成績）

（単位：億円〔単位未満切捨て〕）

区　　分	平成30年度決算 A	令和元年度決算 B	対前年増減額・率 B-A	(%)
営業収益	19,085	12,308	△ 6,776	△35.5%
高速道路事業	18,594	11,748	△ 6,845	△36.8%
（料金収入）	8,599	8,574	△ 25	△0.2%
（道路資産完成高）	9,985	3,160	△ 6,825	△68.3%
（その他の売上高）	8	13	5	60.6%
関連事業	491	559	68	14.0%
（ＳＡ・ＰＡ事業）	107	106	△ 1	△1.3%
（受託・その他の事業）	383	453	70	18.3%
営業費用	19,105	12,270	△ 6,835	△35.7%
高速道路事業	18,627	11,717	△ 6,910	△37.0%
（道路資産賃借料）	6,211	6,118	△ 93	△1.4%
（道路資産完成原価）	9,985	3,160	△ 6,825	△68.3%
（管理費用等）	2,430	2,438	8	0.3%
関連事業	477	552	74	15.6%
（ＳＡ・ＰＡ事業）	92	95	3	3.7%
（受託・その他の事業）	385	457	71	18.5%
営業利益（△損失）	△ 20	38	58	－
高速道路事業	△ 33	31	65	－
関連事業	13	7	△ 6	△45.9%
経常利益	19	70	51	258.8%
当期純利益	12	58	46	378.0%

■トピックス（令和元年度の主な取り組み）

【高速道路事業】

■新規開通（ネットワークの整備）

東北中央自動車道　南陽高畠IC～山形上山IC間（24．4km）の開通（平成31年4月13日）により、並行する国道13号線の渋滞緩和、東北自動車道とのダブルネットワーク（災害時の代替機能確保、関東圏へのアクセス向上）が構築されました。その他、常磐自動車道　大熊IC～浪江IC間に常磐双葉ICが開通（令和2年3月7日）し、高速道路の利用圏拡大による復興事業の加速や双葉町中心部からの緊急車両の広域活動および高次医療機関までの所要時間短縮が図られました。

東北中央自動車道　南陽高畠IC～山形上山IC開通

常磐自動車道　常磐双葉IC

■高速道路リニューアルプロジェクト（機能の向上と長寿命化）

高速道路のネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、老朽化した橋りょうの対策工事やトンネルの補強工事などを実施しています。令和元年度においては、東北自動車道　十和田IC～小坂IC間の小坂川橋など、5橋の床版取替工事などが完了しました。

東北道　十和田管内高速道路リニューアル工事

【関連事業】

■SA・PA商業施設のオープン

令和元年7月29日に東北自動車道　蓮田SA（上り線）をオープンしました。新たな蓮田SA（上り線）は、東京方面に約2．5km移転し、旧SAと比べて駐車マスを約3倍、商業施設の規模を約2倍と大きく拡張し、商業施設は「Pasar（パサール）蓮田」（上り線）として開業しました。

東北道　Pasar蓮田（上り線）